

「普代村人口ビジョン」と「普代村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の骨格素案

普代村人口ビジョン

中長期的展望(2060年までを基本)

I. 人口の現状分析

○人口動向分析

①人口の動向を把握する

- 普代村の人口は、昭和三十九年(1966年)をピークに減少に転じており、平成26(2014)年10月1日現在の人口は、2,913人となっている。
- 生産年齢人口は、昭和40(1965)年をピークに減少に転じており、平成26(2014)年をピークに減少に転じている。また、年少人口は、昭和35(1960)年をピークに減少に転じ、平成7(1995)年を境に、年少人口(0～14歳)を老年人口(65歳以上)が上回っている。
- 自然増減については、平成9(1997)年以降は死亡数が出生数を上回る自然減が続いている。直近5年間(平成24(2012)～平成26(2014)年)の出生数の平均は約15人、死亡数の平均は約45人で、約30人の自然減となっている。
- 社会増減については、平成5(1993)年を除き社会減となっており、直近3年間(平成24(2012)～平成26(2014)年)の転入数の平均は約69人、転出の平均は約78人で、約9人の自然減となっている。
- 普代村の2008～2012年合計出生率1.54で、平成22(2010)年における全国平均1.43及び岩手県平均1.46を上回るものの、平成9(1997)年以降は自然増減がマイナスに転じ、総人口も減少が続いている。

○将来人口推計の分析

②将来人口推計を分析する

- 社人研の推計によると平成22(2010)年の総人口3,088人が、平成52(2040)年には1,762人(42.9%減少)、平成72(2060)年には1,050人(66.0%減少)まで減少する。
- 平成72(2060)年の年齢構成は、年少人口81人(7.7%)、生産年齢人口451人(42.9%)、高齢者人口518人(49.4%)となる。
- 平成22(2010)年の生産年齢人口1,759人(57.0%)が平成72(2060)年には451人となり、大幅な減少(1,308人減少)が予測され、地域経済の縮小、若年層の流出、必要サービスの維持が困難となることが懸念される。

○将来展望に必要な調査・分析

③将来展望に必要な調査・分析を行う

II. 人口の将来展望

○将来展望に必要な調査・分析

※総合発展計画の策定に係るアンケート調査と併せ、今後、結婚・出産・子育て・移住に関する意識・希望等の調査を行う。

○目指すべき将来の方向・施策の方向性

※基本的視点を定める。(以下国の例示)

- 移住・定住に関する希望を実現する
- 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を支援する
- 多様な地域を形成する

○人口の将来展望

※基本的視点に基づき、普代村の将来人口の目標値を設定する。

- 平成52(2040)年の総人口1,762人⇒#、###人増の#、###人を目標
- 年齢構成の改善(生産年齢人口構成比50%台を維持)
- 希望出生率の実現(現在(2008～2012年)1.54⇒平成37年(2025)年1.80⇒平成42年(2030)年以降2.10)

④人口の将来展望の目標値を設定する

普代村まち・ひと・しごと創生総合戦略(2015～2019年度の5カ年)

基本目標と基本的方向

①地方における安定した雇用を創出する

＜基本的方向案＞

- 地域産業の競争力強化
- 魅力ある雇用創出
- 女性・高齢者・障害者の就業機会の拡大 など

②5年後の理想の普代村を考え、講ずるべき方向性を検討する

②地方への新しい人の流れをつくる

＜基本的方向案＞

- 普代への移住と定住の促進
- 普代の個性と魅力の積極発信力強化
- 豊かな自然と伝統文化の継承
- 誘客拡大のための観光力強化 など

③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

＜基本的方向案＞

- 出会いの場の創出
- 妊娠・出産・子育て支援の充実
- ワークライフバランスの推進
- 教育環境の充実 など

④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

＜基本的方向案＞

- 健康寿命の延伸
- 環境の維持
- 住民が地域防災の担い手となる環境の確保
- 地域を支えたいと思う人材の育成 など

⑤重要業績評価指標(KPI)を実現する

⑤将来展望の目標値を実現する

主な事業と重要業績評価指標(KPI)

③具体的な施策(アクションプラン)を検討し、重要業績評価指標を設定する

④PDCAサイクルを通じ、客観的な効果検証を実施する

⑤重要業績評価指標(KPI)を実現する